



附特就職支援ネットワーク会議の取組

～「在学中に身に付けてほしい力 アンケート」と「フォローアップミーティング」の結果より～



1 目的

知的障がいのある児童生徒のキャリア教育及び就労支援を効果的に推進するため、熊本大学教育学部附属特別支援学校（以下「本校」という。）において、教育・労働・福祉等の関係機関による熊本大学教育学部附属特別支援学校就職支援ネットワーク会議（以下「附特就職支援ネットワーク会議」という。）を設置し、各関係機関が連携し、情報の共有化を図りながら本校及び地域のキャリア教育や就労支援体制を充実させることを目的とする。

2 取組内容

- (1) 社会に開かれた教育課程の実現に向けた本校のカリキュラム・マネジメントへの評価及び助言
- (2) 卒業後を見据えた「在学中に身に付けてほしい力 アンケート」等に関する情報交換
- (3) 教育・労働・福祉等の関係機関が連携・協働した取組の実施

3 開催数

年3回（6月，11月，2月）



平成30年度

附特就職支援ネットワーク会議委員（8名）

- ・くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁（主任支援ワーカー）
- ・アス・トライ 就労移行支援事業所（代表）
- ・熊本県中小企業家同友会（障がい者雇用支援委員会 委員長）
- ・チャレンジめいとくの里ゆめくらしワークス事業部（サービス管理責任者）
- ・社会福祉法人ライン工房（総括施設長）
- ・熊本市障がい者相談支援センターじょうなん（センター長）
- ・熊本障害者職業センター（主任障害者職業カウンセラー）
- ・社会福祉法人三気の会相談支援事業所たんぼぼ（熊本時習館特別支援相談員）

授業の評価・改善

支援機関と連携・協働した授業作り

高等部 職業科（職業セミナー）

7月にくまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁の原田様にお越しいただき、「働くことについて考えよう」というテーマで親子職業セミナーを開催しました。また、2月にはアス・トライの山田様にお越しいただき、「働くために必要なこと」というテーマで開催予定です。

高等部 自立活動

就労移行支援事業で活用されているアセスメントツールや障害者職業センターで実施されている職業準備支援における支援方法に関する情報交換を行い、授業に活用しています。



高等部職業科「班別作業」の授業評価

高等部職業科「班別作業（サービス班，陶工班，縫工班）」の授業を附特就職支援ネットワーク委員の方々に参観していただき、意見交換を行いました。

委員からは、「サービス班（カフェでの接客）の取り組みでコミュニケーションの力を育んでほしい」「生徒の作業時間における目標を明確にして授業を行うことが大切」等の意見が出されました。



研修会等の開催

「卒業後の働く生活を描くセミナー 2018」の開催

障がいのある方の「働く」「暮らす」の支援を行う3つの社会福祉法人と本校が協働し、卒業後の「働く生活」の実状について知っていただき、子どもたちの将来がより具体的にイメージできるようになることを目的として、セミナーを開催しました。今回は「発達障がいのある方への就労支援」をテーマにWELL'S TOKYOの堀江様の講演や熊本における事例発表を実施し、約300名の方々に御参加いただきました。



「進路支援懇談会」の開催

本校及び地域の保護者を対象に、進路支援懇談会を開催しました。第1回（9月）では、「学校卒業後の生活について」というテーマでライン工房の熊川様にお越しいただき、御講話いただきました。特にグループホーム等の卒業後の「暮らし」に関することについて保護者の方々から質問が出されました。また、第2回（3月）は、熊本市障がい者相談支援センターじょうなんの園田様にお越しいただき、「障がい基礎年金」について御講話をいただく予定です。



地域支援

就労相談窓口「就労サポートすずかけ」を開設し、校内外の相談窓口を明確にするとともに、労働・福祉等の関係機関と連携し、校内のキャリア教育・就労支援や卒業後のフォローアップ体制の充実に取り組んでいます。

また、そのノウハウを地域の小中高等学校等への進路・就労支援へ活用し、センター的機能を発揮しています。

高等学校等への支援例

- 就労相談や本人のアセスメント
- インターンシップ先の案内
- インターンシップの進め方（事前の情報交換やケース会の実施）
- インターンシップにおける巡回支援のサポート
- 障がい福祉サービスや支援機関の情報提供

平成30年度の実績

- 本校支援エリアの高等学校3年生の就労支援
- 高等学校から就職後、離職した生徒の再就職先の情報提供
- 県立支援学校3年生へのインターンシップ先紹介
- 市内ブロック研修や高等学校の校内研修での講話

第12回 キャリア教育優良学校 文部科学大臣表彰 受賞

平成30年度 文部科学大臣 優秀教職員組織 受賞 「就労サポートすずかけ」

進路・就労に関する研修依頼や就労相談等、何でもお困りのことがありましたら、本校の就労相談窓口「就労サポートすずかけ」に御連絡ください。

「就労サポートすずかけ」連絡先
Tel : 096-342-2953（本校内）
Fax: 096-342-2950

くまだい ふとく 検索

※詳しくは本校HPから





一般企業 100 社による 「在学中に身に付けてほしい力 アンケート」より

「在学中に身に付けてほしい力 アンケート」とは

本校卒業生の一般企業への進路先と就職支援コーディネーターが職場開拓で訪問した「障がい者を雇用している」及び「これから障がい者雇用を検討している」企業 100 社を対象にアンケートを実施しました。

アンケート内容は、本校が開発した『附特就労アセスメントシート』を基に、知的障がいのある児童生徒に在学中に身に付けてほしい力について、「生活面」「コミュニケーション」「余暇活動」「就労における作業スキル」「就労における社会スキル」の 5 観点 76 項目及び記述式で作成しました。

(1) 「そう思う（在学中に必ず身に付けてほしい）」「できればそう思う（在学中にできれば身に付けてほしい）」の回答が多い項目

①生活面

- ・規則正しい生活ができる。
- ・必要な服薬、体調面への配慮ができる。
- ・整理整頓をすることができる。
- ・準備支度をすることができる。
- ・欠勤、遅刻、早退がない。
- ・交通ルールを理解している。
- ・衛生面に気を配ることができる。

②コミュニケーション面

- ・自分から挨拶ができる。
- ・相手に聞こえるように返事をする事ができる。
- ・困ったとき、分からないときに自分から相談することができる。
- ・自分の意思や気持ちを伝えることができる。
- ・体調不良を訴えることができる。

③就労における作業スキル

- ・与えられた仕事を最後までやり遂げることができる。
- ・作業の指示が理解できる。

④就労における社会スキル

- ・困っているときに誰かに助けを求めることができる。
- ・人に見られていなくても作業することができる。
- ・指示や注意を冷静に受け入れ改善することができる。
- ・相手の気持ちが理解できる。
- ・働きたいという気持ちがある。

(2) 「あまり思わない（どちらかといえば卒業後でもかまわない）」「思わない（卒業後でもかまわない）」の回答が多い項目

①生活面

- ・電話対応ができる。
- ・法律や制度を理解している。
- ・ストレスに強い。
- ・プレッシャーに強い。

②余暇

- ・休みの計画を立てることができる。
- ・情報を収集したり活用したりすることができる。

③就労における作業スキル

- ・手先が器用である。
- ・情報機器を使用して作業を行うことができる。
- ・重たいものを持ったり、動かしたりする体力がある。

④就労における社会スキル

- ・相手のペースに合わせることができる。
- ・リーダーシップを発揮して作業することができる。

(3) 記述式での意見（一部抜粋）

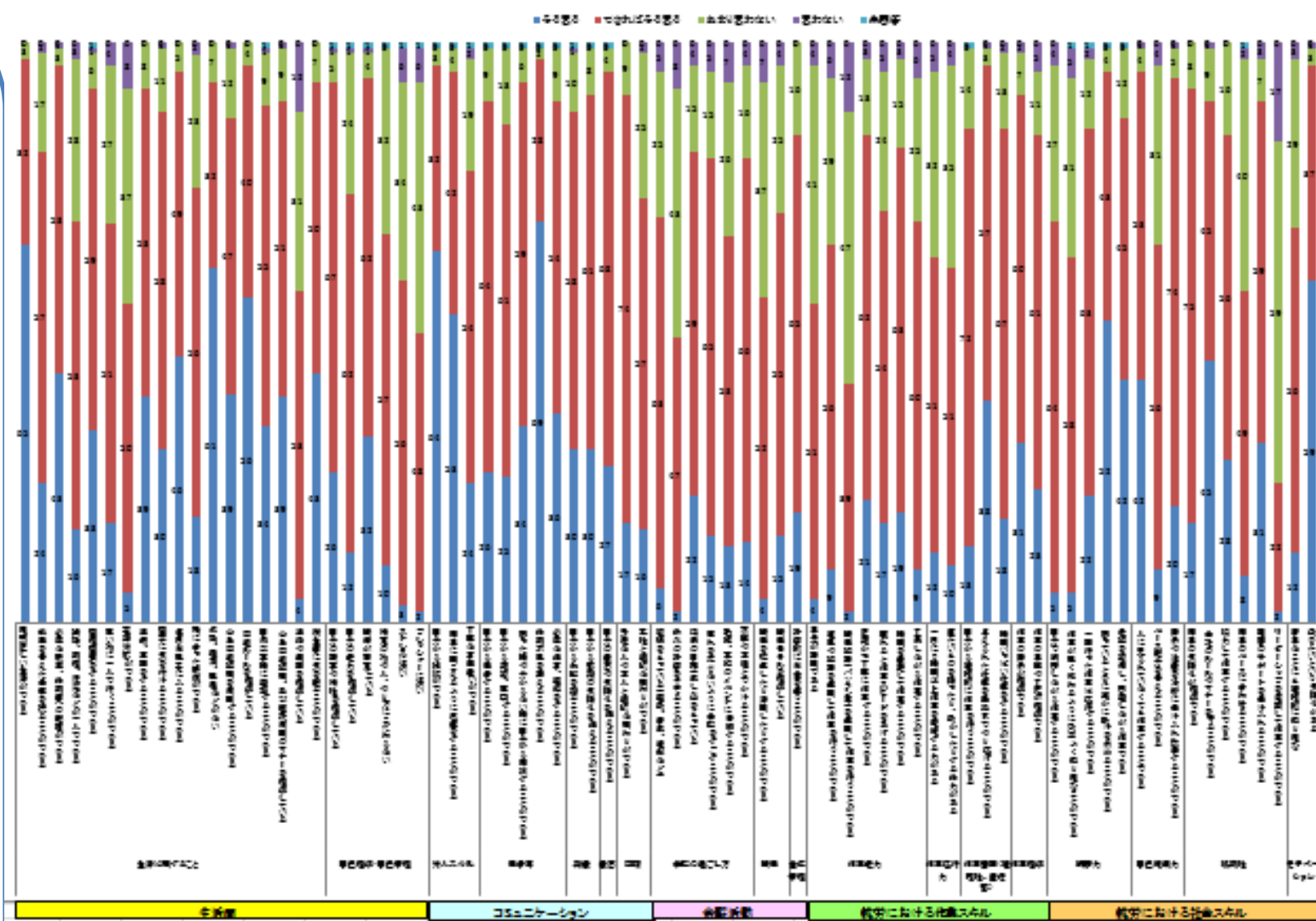
①在学中に身に付けてほしい力

- 感謝の気持ちや素直な心
- 我慢する力
- 体調管理
- 会社と学校の違い。
- 仕事に真面目に誠実に取り組む姿勢
- 学校で社会に出て具体的に役立つ内容を実践的に学習できるようにすることで、職場で苦労することが減ると思います。

②10年後に必要な力

- コミュニケーションの力
- 情報機器を活用する力（情報処理能力）
- 自立心
- 状況判断能力
- 想像力
- 自己肯定感
- 自己理解
- キャリアアップを目指す意欲
- サービス力（接客、待遇、マナー）
- 本人の力よりも社会の理解や本人をサポートできる環境づくりが大切。
- 生徒たち一人一人の個性や特性を生かす職場で現場実習を行い、マッチングしていくことが大切。

「在学中に身に付けてほしい力」アンケート集計



アンケート結果より

○企業は、在学中にハードスキル（ワークスキル）よりも、ソフトスキル（働く意欲やライフスキル等）を身に付けてほしいと考えている。

○企業は、ハードスキル（ワークスキル）に関しては、就職後に OJT（オン・ザ・ジョブトレーニング）で学ぶことを重視していると考えられる。

○在学中に、「コミュニケーション」や「職場におけるルールやマナー」に関しての学習が必要である。

来年度（カリキュラムや関係機関と連携・協働した取組）に向けて

- 小中高で系統性のある一貫した「ライフスキル」に関する学習の確立と日常生活へ繋げるカリキュラムの検討。
- 本人が「夢や希望」に向けて、目標を設定し、それに向けて主体的に課題解決できるシステム作り。
- 高等部の現場実習において「提案型（本人の強みをアピールする）」による職場開拓の実施。
- 小中高での「コミュニケーションの学習」と自立活動との関連を整理。
- 高等部における関係機関と連携・協働した「職場におけるルールやマナー」に関する授業の実施。

「在学中に身に付けてほしい力 アンケート」

知覚障がいのある児童生徒に「在学中に身に付けてほしい力」に関するアンケート

※知覚障がいのある児童生徒を対象としたアンケートです。結果は匿名で集計されます。

※知覚障がいのある児童生徒は「在学中に身に付けてほしい力」について 1～4 のうち、最も大切なものを 3 つ選んでください。

1. 規則正しい生活ができる。 2. 必要な服薬、体調面への配慮ができる。 3. 整理整頓をすることができる。 4. 準備支度をすることができる。 5. 欠勤、遅刻、早退がない。 6. 交通ルールを理解している。 7. 衛生面に気を配ることができる。

8. 自分から挨拶ができる。 9. 相手に聞こえるように返事をする事ができる。 10. 困ったとき、分からないときに自分から相談することができる。 11. 自分の意思や気持ちを伝えることができる。 12. 体調不良を訴えることができる。

13. 与えられた仕事を最後までやり遂げることができる。 14. 作業の指示が理解できる。

15. 困っているときに誰かに助けを求めることができる。 16. 人に見られていなくても作業することができる。 17. 指示や注意を冷静に受け入れ改善することができる。 18. 相手の気持ちが理解できる。 19. 働きたいという気持ちがある。

卒業後3年目、6年目、10年目における「フォローアップミーティング」より

フォローアップミーティングとは

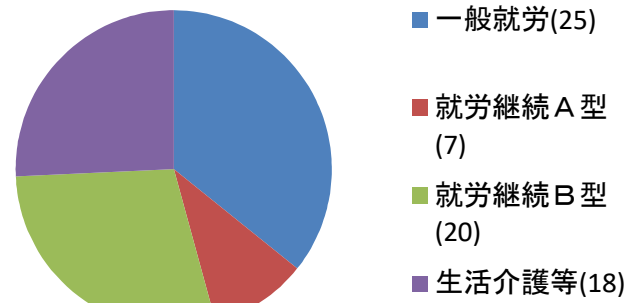
卒業後、3年・6年・10年目を大切な節目と捉え、該当する卒業生を対象に、本人・保護者・就労先の担当者・関係機関や学校担当者が一堂に会し、現状を共通理解し、今後の支援の在り方や役割分担等を確認するミーティングを実施しています。

フォローアップミーティングのもちかた

- フォローアップミーティング参加者は本人・保護者・就労先担当者・学校・支援機関担当者を原則とする。
- ミーティング自体は就労先（勤務先）で行い、40～50分程度を目安とする。
- 資料は追跡フォローアップ調査票A・Bを準備し、自立に向けた就労支援・生活支援のネットワーク化を目的とする。

対象卒業生

卒業後10年			卒業後6年			卒業後3年			計
h18年	h19年	h20年	h22年	h23年	h24年	h25年	h26年	h27年	
7人	8人	8人	9人	8人	7人	8人	8人	7人	70人
男(13) 女(10)			男(14) 女(10)			男(13) 女(10)			男(40) 女(30)



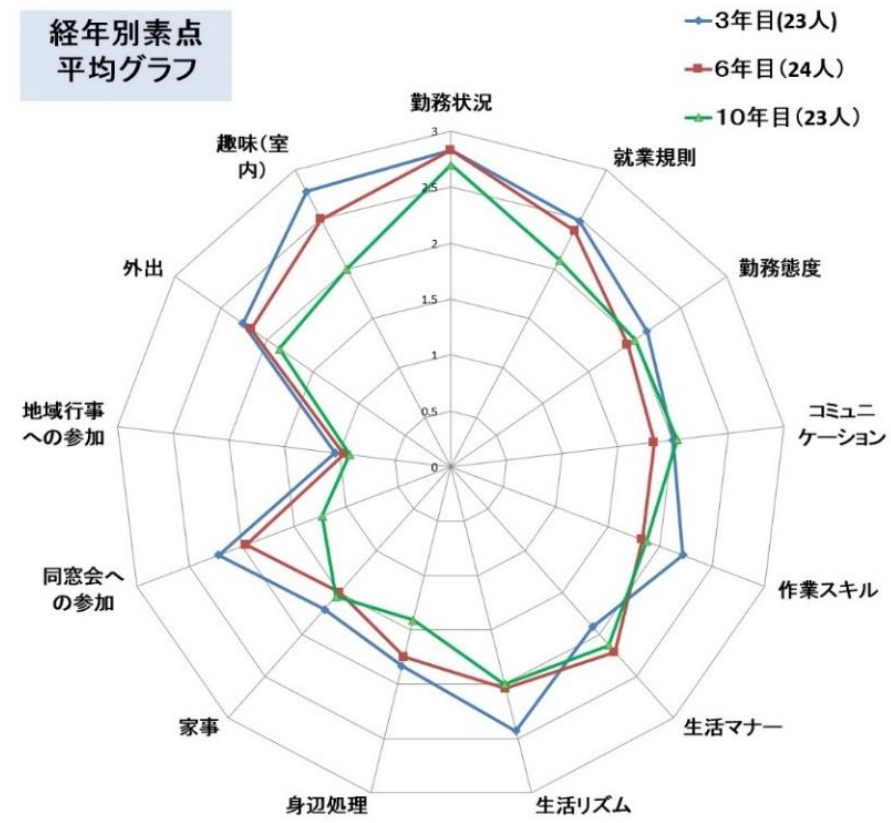
フォローアップミーティングの結果より

- 本人の今できていることが、卒業後にできなくならないように進路先との移行支援（個別移行支援計画、移行支援会議等）が重要である。
- 在学中における「余暇の学習」の更なる充実や、地域の支援機関と連携・協働し、「調理教室」等の生涯学習の場を作っていくことも必要である。

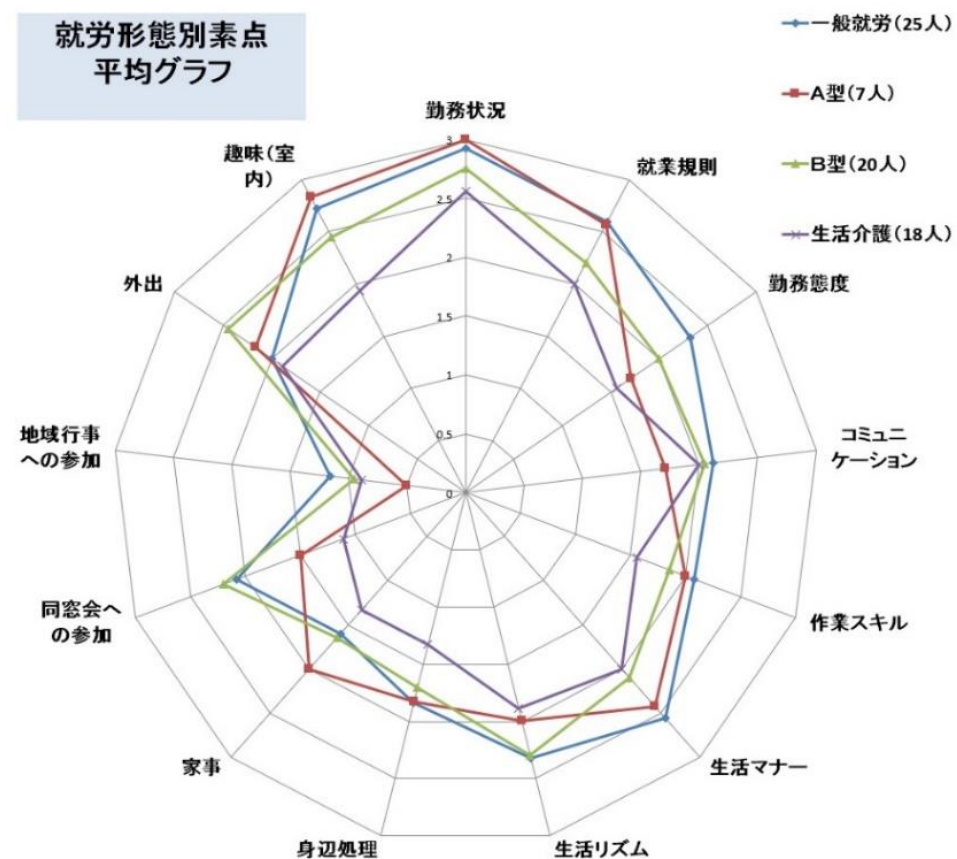
来年度（カリキュラムや関係機関と連携・協働した取組）に向けて

- 本校の卒業時に実施する「移行支援ミーティング」や「個別移行支援計画」作成及び「フォローアップミーティング」の結果検証（移行支援ミーティング実施者が3年目、3年目のフォローアップミーティング実施者が6年目を迎える）。
- 関係機関（就職支援ネットワーク会議委員）として連携・協働した生涯学習の場を検討。
- 小中高の系統性を踏まえた「余暇の学習」の展開。
- 家庭生活（家事等の暮らし）に関する学習の充実。

経年別素点平均グラフ



就労形態別素点平均グラフ



【卒業3年目】

社会生活における個人差が少しずつ出始めている状況。個別のフォローアップの重要性が高い。卒業後1年目と2年目のフォローアップ（関係機関と連携等）の影響も大きい。

【卒業6年目】

職場での大きな失敗やトラブルを経験した者やなかなか情緒が落ち着かない者も数人いるが、比較的安定した社会生活を営んでいる。ただし、すでに転職（事業所の変更）を経験した者も数名いる。

【卒業10年目】

支援機関との連携が十分取れているケースとうまく繋がらず、困り感を抱える家庭があるなど、その差が大きい。

経年比較より

- 「地域行事への参加」が全体的に低く、「外出」「同窓会への参加」が年々低くなっており、仕事以外の外出の機会が次第に減っている。
- 卒業後、次第に「趣味（室内）」や「家事」「身辺処理」が低くなっている。
- 「作業スキル」や「生活リズム」は低くなっている（生活や仕事のマンネリ化）。また、「生活マナー」は向上（社会人としての経験の積み重ね）。

【一般就労】

- ・「勤務態度」は比較的よい。
- ・「趣味（室内）」が一番充実しているが、「外出」は低い。

【A型】

- ・「勤務態度」「コミュニケーション」面に課題が多い。ただし、「作業スキル」は比較的高い。
- ・「外出」「同窓会への参加」が低い。

【B型】

- ・「外出」「同窓会への参加」「生活リズム」の割合が高い。
- ・「作業スキル」「生活マナー」は全体的に低く、スキルアップの必要性あり。

【生活介護】

- ・全体的に低い、「コミュニケーション」は支援員の方や家族と上手く取れていることが多い。

就労形態比較より

- 一般就労者は「外出」、A型利用者は「勤務態度」や「コミュニケーション」、B型利用者は「作業スキル」や「生活マナー」、生活介護利用者は「趣味（室内）」が課題。
- 全体をととして「外出」「身辺処理」「家事」「コミュニケーション」「作業スキル（キャリアアップ）」が課題。